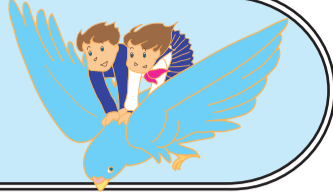


# 君とつばさ



令和2年8月1日  
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会  
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1  
 (電話) 03(3556)0771  
 (HP) https://www.kotsujii.com

©交通遺児育英会

## 修学支援金給付を着実に遂行

第4次長期計画の第4年度である令和元年度は、同計画の課題に重点を置きつつ各事業を円滑に遂行した。奨学生の採用については前年度から減少した。高校無償化の実施や低所得者への支援金支給の拡充などの影響が大きかった。修学支援金給付事業の「家賃補助」については、上給付人数、給付金額ともに前年度下期から減少したが、下期はともに前年度下期から増加した。「上級学校進学受験費用補助」については給付人数、給付金額ともに前年度から減少した。「普通自動車第一種運転免許等 得費用補助」については給付人数、給付金額ともに前年度から増加した。

### 元年度事業・決算報告を承認

令和元年度事業報告と決算報告は、新型コロナウイルス対策として会議を開くことはせず、「決議の省略」(書面決議)手続きにより行った。理事全員が全議案に対して

同意し、承認した。  
**【事業報告】**  
 1. 奨学生の採用  
 新規採用は、高校11人、大学177人、大学院8人、専修学校49人、各種学校3人の計353人。前年度に比べ、37人増だった。

一方、継続採用者は、大学院を除き、すべての学校区で減少しており、60人減少した。奨学金、入学一時金、進学準備金を合わせた貸与総額は6億6901万円、前年度に比べ、1432万円減となった。

2. 修学支援金の給付  
 家賃補助は、給付額が月々1万5千円、半年分一括で、上期161人、下期170人に計2979万円を給付した。上級学校進学受験費用補助は、高校奨学生54人に206万円を給付。普通自動車第一種運転免許取得費用補助は、30年度4月以降は「準中型自動車第一種運転免許」にも追加適用し、給付人数は130人、給付額は1854万円。

3. 奨学金の返還  
 返還金の総額は10億800万円、返還率88.1%で、返還額、返還率とも前年度をやや下回る実績だが、滞納1年超は2393人と、前年度の滞納者数より減少した。返還免除は87件、5800万円となり、免除件数および金額とも前年度に続き半年を大きく上回った。

4. 新システムの推進  
 平成29年に奨学金申込みから返還終了までの一元管理を目指す新奨学金管理システムの開発に着手したが、それが完成し、8月に稼働を開始した。

5. 奨学生への指導  
 高校奨学生と保護者の「つどい」は、83家族188人が参加した。高校奨学生を対象にした海外語学研修は、アメリカに24人を派遣した。

6. 学生寮の運営等  
 心塾東京寮では、文章講座、読書感想文講座、スピーチ講座を各4回、パソコンと英会話の講座を前期2回、後期3回実施。関西寮は読書感想文講座を4回実施。東京寮と関西寮では観劇会を秋に実施した。

7. 事業資金の拡大  
 多額の遺贈もあり、寄付金総額は7億4200万円。そのうち遺贈を除いた寄付金収入だけで4億6700万円あり、予算3億700万円を1億6700万円上回った。

8. 知名度向上活動  
 春・秋の全国交通安全運動、北海道と北海道交通安全推進委員会主催の「飲酒運転根絶の日」決起大会、福岡市と福岡市安全推進協議会主催の「飲酒運転撲滅大会」、また警察庁主催のシンポジウムへの参加、県指定自動車学校協会や運輸会社への出張講演など、交通安全意識の啓発に努めた。新規ツールとして「あしながおじさんDVD」を制作した。

当会創立50周年を記念して、「50年史」の編纂作業を進めた。

【決算報告】  
 元年度決算は、経常収益が財産運用益2億2300万円と受取寄付金7億4200万円など計9億8300万円。経常費用が事業費6億2900万円と管理費9300万円と計7億2200万円。当期正味財産増減額は2億6100万円の黒字。

【人事】  
**【奨学生選考委員】**  
 ▼新任委員(6月1日付) 三町 章(小平市教育委員会委員) ▼退任委員(5月31日付) 重内 明  
**【理事】**  
 ▼新任理事(6月12日付) 重内 明(前奨学生選考委員、元全日本中学校長会会長)  
 ▼退任理事(6月12日付) 安齋 省一  
**【評議員】**  
 ▼新任評議員(7月1日付) 戸村 伸一郎(全日本自動車産業労働組合 総連合会副事務局長)、上村 肇(全国高等学校長協会事務局長)  
 ▼退任評議員(6月30日付) 武市 浩二、島田 悦郎

春・秋の全国交通安全運動、北海道と北海道交通安全推進委員会主催の「飲酒運転根絶の日」決起大会、福岡市と福岡市安全推進協議会主催の「飲酒運転撲滅大会」、また警察庁主催のシンポジウムへの参加、県指定自動車学校協会や運輸会社への出張講演など、交通安全意識の啓発に努めた。新規ツールとして「あしながおじさんDVD」を制作した。

当会創立50周年を記念して、「50年史」の編纂作業を進めた。

【決算報告】  
 元年度決算は、経常収益が財産運用益2億2300万円と受取寄付金7億4200万円など計9億8300万円。経常費用が事業費6億2900万円と管理費9300万円と計7億2200万円。当期正味財産増減額は2億6100万円の黒字。

【人事】  
**【奨学生選考委員】**  
 ▼新任委員(6月1日付) 三町 章(小平市教育委員会委員) ▼退任委員(5月31日付) 重内 明  
**【理事】**  
 ▼新任理事(6月12日付) 重内 明(前奨学生選考委員、元全日本中学校長会会長)  
 ▼退任理事(6月12日付) 安齋 省一  
**【評議員】**  
 ▼新任評議員(7月1日付) 戸村 伸一郎(全日本自動車産業労働組合 総連合会副事務局長)、上村 肇(全国高等学校長協会事務局長)  
 ▼退任評議員(6月30日付) 武市 浩二、島田 悦郎

【奨学生OB】  
 千葉 美侑

医療経済学者 デヒッド・ス タックラー教授は「人を殺すのはワイルドではなく、緊縮財政だ」と警鐘をならす(朝日新聞)6月6日朝刊11面オピニオン。教授はフレクジット反対の立場から英オックスフォード大を昨年やめ、伊ミラノのポッコニ大へ移籍。そこに新型コロナウイルスが見舞った▼教授は、コロナ禍の後に各国で緊縮財政が始まり、財政赤字を理由に民営化が進むような、惨事便乗型の資本主義が生まれないかと心配する▼惨事便乗型については、ナオミ・クライン著「ショックドクトリン」(上下、岩波書店)が詳しい。津波、ハリケーンのような自然災害や戦争、政変などの危機につけてみ、過激な市場主義経済改革を強行すること、グローバル企業によるショック療法的な資本主義を指す▼日本でもコロナ禍の国会で年金改革法案が性急に通され、惨事便乗型かと批判を受けた。ともあれコロナ禍の惨状の度合いは、公衆衛生が機能していたか否かに比例するようだ▼教授は三つの原則に基づき、新しいニューディール政策を説く。一つは経済政策の中心に健康と人を置くこと。二つ目は収束後に人々が復職できるようにすること。三つ目は公衆衛生への投資だ。公共福祉の充実が再生の早道よのである。

## コロナ対応支援金を給付 奨学生1人あたり20万円

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、政府による緊急事態宣言が発出されたことから、外出自粛、店舗や施設に対しては休業や営業時間短縮の要請が出され、交通遺児家庭においても保護者やアルバイト学生の収入や就業機会に深刻な影響が及んでいることと見られます。こうした状況を踏まえ、交通遺児育英会では奨学生1人あたり20万円の支援金を給付することを決定しました。この支援金だけでは十分ではありません

が、政府による1人10万円の特別定額給付金や雇用調整助成金等と合わせて、またこうした助成策が届くまでの支援として一定の役割を果たすものと確信しております。

●対象/交通遺児育英会の奨学生全員(2020年6月1日現在の交通遺児育英会の奨学生で、休止・停止者を除く高校、高専、大学、大学院、専修・各種学校計約1000名)

●給付額/1人あたり20万円  
 ●給付時期/2020年6月18日

### 今年度の語学研修、つどいは中止

令和2年度海外語学研修の中止を決定しました(参加予定者には個別に連絡済み)。

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大に直面し、海外語学研修の受け入れ先の米国はホームステイを行える状況ではありません。日本では学業の遅れを取り戻すために多くの地域で夏休みが短縮されることもあり、大変残念ですが、予定しておりました令和2年度の海外語学研修につきましても、実施を断念せざるを得ないと判断いたしました。

令和3年度海外語学研修は予定どおりの実施を考えております。また、毎年8月には「高校奨学生と保護者のつどい」は予定どおり令和3年8月中旬の実施を考えております。

### 新奨学生200人を採用

2年度 総数883人に

交通遺児育英会は奨学生予約者の中で今春進学した200人を正式に採用し、6月1日、各種学校が2人減となり、本人と進学先の学校へ通知した。

今年度、新たに奨学生に採用されたのは、高校64人、大学・短大242人、大学・短大524人、大学院15人、専修学校99人、各種学校3人で、883人と前年同期に比べて高



懐かしい…夏の大会

奨学生OB  
 千葉 美侑

### 交通遺児育英会50年史刊行



※今号は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で4面構成にしており、す(編集部)

令和元年度

心塾読書感想文最優秀作

交通遺児育英会の心塾生が取り組む読書感想文講座(東京・所沢・関西各寮)で、令和元年度最優秀感想文が選ばれた。東京寮・柳田萌香さん(学習院大学卒業)と関西寮・猪上夏菜子さん(関西大学2年)の二つの読書感想文。それらの全文を講師の講評を添えて紹介する。

生きていく過去

『錦繡』

宮本 輝 著 (新潮文庫)

手紙からは、本当にこの手紙を送って良いのだからと迷い、やはうかという迷いと、やはり送ろうとする決意がこもっていた。それに対する靖明の返事は、まだ一歩踏み出すことができない様子だったが、二人は手紙でお互いの知らなかった過去を明かすことで、結婚していた当時の関係とは違う真摯で正直な気持ちの吐露になっていった。過去ばかり語り合っていた二人は、半ば以降では現況についても報告し始める。終盤の亜紀が書いた手紙の中で印象に残ったフ

大きな世界への旅

『四十一番の少年』

井上 ひさし 著 (文春文庫)

子どもの生きる世界はとも小さい。私自身、まだ成人していない子どもであるものの、小学生の頃の自分の世界は、家と小学校、そして近所の公園程度で完結しており、大学生である現在の自分とは比べものにならないほど小さいものであった。『四十一番の少年』に登場する利雄や昌吉の世界も、彼らが生活していたナザレト・ホームを中心とする小さな世界で構成されている。そんな小さな世界の中でもがき、



東京寮

柳田 萌香

学習院大学4年(令和元年当時)

どうしても理解できず困惑した。私は父を亡くして今年で十年になり、父の交通事故の話と自分の苦しみが大勢の人たちの前で講演する活動をしている。過去のことを文字に起こして今を振り返り、未来をどうしたいのかを文章にすることで、今の自分が存在するのは過去があったことで、現在は過去の延長線上にあると思っていたため、講師のその言葉を受け入れられず、自分の考えは変なのかと不安だった。だが、亜紀の「過去は生きて今日の自分を作る」という言葉を読んで、自分の考えと共鳴した。

文字を起こすことは、今を整理したり未来を考えたりの上で、何か手助けをしてくれるのかもれない。亜紀と靖明が「いま」に気づけたように、私も過去から今を見直し、これから先を考えたいと思う。

元夫婦の心の移ろい、たくみにすくい取る。上手に綴っている。書簡体の小説の特徴として、柳田さんは、覗き見の感覚で読んだこと(講師注)元夫婦が交わした手紙を他人である読者が後ろめたさを感じながら読むであろうことを著者は織り込んでい

る、十四通に及ぶ二人の往復書簡からは温もりを感じたことを冒頭で綴っているのが良い。亜紀の靖明への最初の手紙では迷いと決意が同居した気持ちが込められていたこと、さらに往復書簡の中盤と終盤の二人の気持ちの移ろいについて感想を述べ、最後で過去と未来の間に「いま」という存在がようやく気づいた亜紀の言葉に言及し、父を亡くした自分の過去であったの今であることとをしっかりと意見として綴っている。以上を踏まえるなら、メインタイトルは「生きていくための過去」としてはどうだろう。(講師・井谷 昌喜)

関西寮

猪上 夏菜子

関西大学1年(令和元年当時)



生計画を実現するために仕組まれたものであったが、利雄や孝からしても、普段生活している「小さな世界」から自分たちの知らない「大きな世界」へと飛び出すことのできるきっかけとなった点で、昌吉とも目的が一致する部分がある。

物語は、大人になった利雄がホームを訪れる場面から始まり、終わりの同様に大人の利雄の視点で描かれている。大人になつたことでたぐさんの経験を積み、「大きな世界」を知った視点で描かれる物語の終わりは、よりはっきりと、そして残酷に彼の幼少期の「小さな世界」での暮らしを際立させていた。

周りの洗濯机が風に吹

かれて揺れているなか、ただひとつ止まっているように見えた十五番の札は、四十一番の少年に何を訴えていたのだろうか。「大きな世界」を知ることなく人生を終えてしまった十五番の少年の悔しさや葛藤が、動いていないはずの洗濯机から溢れ出るように伝わってくるのを感じられ、読んでいながら本を閉じ、流れるようにこの感想文をここまで書き連ねたのである。ヒール役にも優しい視線を送る。読み手の個性をしっかりと表した、優れた感想文です。主人公利雄にとって、児童養護施設での暮らし

を「小さな世界」、仕組まれたものとはいえず、丸木舟での冒険を「大きな世界」への旅立ちと対比させました。表題も含めてよく考えられ、うまく書けています。ふつう、主人公の振る舞いにはかなり着目しますが、ヒール役の昌吉をも見つけたことがとりわけ独創的です。「傲慢さや理不尽さ」を指摘しつつ、昌吉にとっての百万円奪取計画の必然性をも匂わせています。じつと動かない洗濯机に「十五番の少年」の悔しさや葛藤を見出した末尾の一段落に、読み手の感性が凝縮しています。悪人正機とも言える優しい視線。見事です。(講師・今泉 哲雄)

油絵の楽しさを知る。この1年最もがんばったのは美術部の活動です。2年 芳賀 依子。水彩画を描いていた中学時代と違い、高校は油絵中心で自分にとっては生まれて初めてのことだったので最初はなかなかうまく塗れませんでした。私はこの1年で油絵の



高校生の声

親へ感謝の気持ち。3年 林勇一。私がいま、自分のなりたい職に就けるように勉強ができてきているのは、まぎれもなく親のおかげです。まず母へ。毎日私のために朝、晩と働いてくれた母がいないと生きていけないと思う。私のやりたいことはすべて協力してもらい、生活の上で嫌だと思ふことは何も無い。「毎日同じご飯でごめんね」と謝るときは、私がそのご飯を食べられるだけで幸せだと思っている。そして父へ。私が将来なりたいと思っている和食調理師になりたいと思つたきっかけを作ってくれた。父はずっと私の頭の中にいる。他の人とは比べたら、一緒にいる時間は短かったかもしれないが、私は誰よりも父と一緒に過ごせた時間を幸せだと思つている。特に、父が一番好きだった魚釣りには形を変えて今、私の夢になっている。魚と触れ合う楽しさを教えてくれたありがとう。これからも空の上で家族を見守ってください。(青森県)

水に溶かして使う水彩絵の具とはまったく違う、チューブから出す濃くて重い絵の具、硬い筆、自分で張ったキャンバス、すべてが新鮮でした。私は神社を描きました。建物は少しでもバランスが崩れると一気にぐちゃぐちゃした印象になってしまうので、下書きはちゃんとバランスがとれているかを確認しながら、細かくやりました。しかし、細かく描きすぎると、キャンバスが下描きに使用した木炭で真っ黒になってしまい、時間もすごくかかってしまいました。やっと塗り始めました。やっと塗り始めました。2年になる新しい担任が家庭訪問をしてくれるようになり、少しずつ勉強を始めました。進路を決める3年の冬、自宅近くの通信制の高校に進むことに決めました。この学校は私と同じようにいじめなどで不登校になった生徒が多く、通信制で一人一人の事情に配慮してくれる高校でした。とはいえず、私にはすべてが一からの挑戦です。前期末試験では、朝早くから試験対策のプリントを片手に必死で勉強しました。母と一緒に手伝ってくれました。おかげで総合や国語で満点を取った。初めは努力が形となって表れました。また、人付き合いには不慣れなこともありますが、少しずつ克服できたと思います。(東京都)

# お母さんの背中

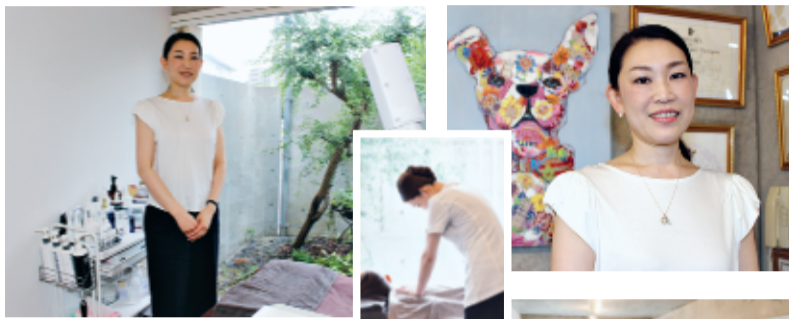
## ソシオエステで遺族を支えたい

**酒**

井咲子さん(45)は奈良県橿原市で「ル・ソレイユ」というエステティックサロンを開業して4年目に入る。客層は40代を中心に20〜60代という。またサロンでのエステティックとは別に、ソシオエステティックも行っている。

「2004年に日本エステティック協会がフランスCOCOS(ココス)と提携契約のもと、日本でソシオエステティック養成講座を開講しました。ソシオエステティックはフランスでは40年以上の歴史があり、病気や事故、失業などの社会的苦境にある人々に対して行うエステティックトリートメントです。医療機関や社会福祉施設など多領域からなるチームによって立てられる治療計画や生活改善計画の一環として採用されています。私たちCOCOS・JAPON認定ソシオエステティックは500時間以上、医療や福祉の専門知識を学びます。フランスでは養成課程を終え試験に合格すると、国家タイトルを取得できる仕組みになっていますが、日本では、ここ数年でようやく認知され始めたばかりです」

酒井さんはお店の営業と共に、京都の池坊短期大学で週2回、エステティックをを目指す学生に、実技と理論を講師として教えている。今年からは職業訓練校



で、エステティックとしてこの講話の機会も持つ。また東京にある一般社団法人日本エステティック協会、ソシオエステティックの普及に関わる委員会にも参加し、啓蒙に動いている。

「今は直接、利用者様に関わる仕事は少ないですが、その事業も来年から本格的に動く予定です」

仕事のスケジュールを聞くとき、忙しさを語る。仕事は、このコロナ禍で立ち止まって自分の生活を振り返る機会を得たようだ。「息子(大輝君・17)と久しぶりにゆっくり語り合う時間が持てました。最近では対等な感じのいろいろと



井咲子さん

ル・ソレイユ le soleil (奈良県橿原市)

店はくつろぎの空間

話せるようになり、成長したのかな。優しい子で、中学から高一まではバスケットボールをしていたのですが、膝を手術後、高2からは部活はテニスをしていました。将来は建築の方に進みたいと、既に1年の時から決めていたようです。実は今年2月に夫の十七回忌を終えたところなんです。事故当時、息子は生後8か月に入ったところで何も覚えていませんが、口元の癖と

高速道路工事の現場監督をしていた洋幸さんは、遮音壁工事の進捗状況を確認に行ったところで事故に遭い、亡くなった。「当時は突然のことで、突然として、すぐに1年がたちました。でも、子どもを育てていくには働きに出なければと考えると、母親が化粧品販売の仕事をしていて関係で知人に誘われて、化粧品会社のエステティックサロンでエステティックの基本を習い始めたのです。大きな学校で集中的に3か月ほどスクーリングして資格を取りました。とにかく社会に出なければという意識が強かったですね。息子が一人立ちして家庭をもつまでは、仕事をがんばるつもりです」

か夫に似ているんですよ。遺伝子ってすごいなあと思います」

**夫**の洋幸さんが亡くなったのは2004年。

「ソシオエステティックで事故や病気で苦しんでいる人の力になりたいと思っています。昨年上智大学のグリーンケア研究所の社会人講座で毎週水曜日と隔週の土曜日に授業を受けています。今の自分には重く難しい内容ですが、ゆくゆくは私のように交通事故で苦しむ遺族、遺児の保護者の力になりたいと思っています」

# オンステージ

**立**

岡優希さん(29)は富士通株式会社のSE(システムエンジニア)に就いている。今年2月に長男・陽希君が産まれ、現在は神奈川県藤沢市の自宅で育児休業中だ(結婚して姓は「神谷」だが、会社

たつおか ゆうき **立岡 優希さん**

富士通株式会社 SE (東京都大田区)

ノルウェーのロフォーテン諸島で「三姉妹で。左から妹、私、姉」



お食い初めのお祝い



報科学科を専攻。グローバルに活躍できる会社をと思って、現職を選んだ。高校時代には育英会の海外語学研修でイギリスでのホームステイを体験した。その経験が就活時にも大きな指標となったという。

「3年前には主人が単身で海外赴任して一人時間が増えたので、その間にテンプルコーディネーターとしてディプロマの資格(卒業資格)を取得しました。その縁で百貨店やパティリーなどをコーディネート

では旧姓の「立岡」を使用している。

「昨年の11月から産前休暇に入り、復帰は来年の2月を考えています。富士通ではSEとして金融システムの開発・運用・保守を担当しています。金融システムは現在、転換期を迎えていると思います。クラウドシステムの導入などの技術的な潮流の激変や、外資系他社の台頭などの大きな変化に対して、時代を先読みして新たなサービスを創っていくことが求められています。そこが今の仕事の面白さであり、難しいところです」

立岡さんは津田塾大学情

ともかく、この育児休業期間は自分のキャリアを見つめ直す、いい機会になっているようです。

「最近、自分の人生において何が大切か、どうありたいかを考えています。私にとっては家族と一緒に過ごす時間が最も大切なこと。その中で、自分らしく働ける仕事とは何だろうと考えています。ライフスタイルの変化によって、自身が仕事に求めるものは変わってきているので、育休中に改めて考えてみようと思っています」

夫の修平さん(33)は人工衛星関連のエンジニアを務めている。

トする機会にも恵まれました。また、GWや夏季休暇を利用しては飛行機や船を何度も乗り継いでいくような海外の秘境にも行きました。

今年子どもが産まれたので、しばらくは海外旅行は封印ですね。もっぱら、子どものお食い初めや初節句行事の時の自宅コーディネートを楽しんでいます」

**彼**

女が仕事と育児の両立を目指すうえで考えるのも母・差千子さん(52)の存在が大きい。

「2歳の時、父(義弘さん・59)が通勤途中で交通事故に遭いました。何とか

# SEの仕事と子育ての両立を目指す

一命を取り留めましたが、医師からは一生寝たきりと言われ、生後1か月の妹もいる中、専業主婦だった母は生活を支えるために市役所に勤務し始めました。今でこそ女性の社会進出が言われていますが、当時は専業主婦のお母さんが多い時代で、友達のお母さんとうらやましく思うこともありました。でも、今は一生懸命に働いてくれた母にとっても感謝しています。子育てをしながら仕事を続けるのは並大抵のことではないと、自分が母親になって身に染みて感じています」

埼玉県戸田市の実家で暮らす父・義弘さんは、リハビリによって、現在は杖を使って何とか歩けるようになった。だが、加齢とともに転倒の頻度も増えている。転んだ時にケガをしないようにと、柔軟な体づくりに日々励んでいるそうだ。

姉の真里奈さん(30)は大学卒業後、米国オレゴン州のコミュニケーションに2年通い、パリーガル(弁護士補助業務)の資格を取得。現在はポートランドの法律事務所勤務する。妹の彩花さん(27)は大学院修了後、臨床心理士と公認心理師の資格を取得し、現在は埼玉県職員として児童相談所に勤めている。「みんな離れて暮らしていますが、頻りに連絡を取り合っています。子どもへの願いですか? 何よりも健康で元気に育ってほしい。人とのつながりを大切にしながら、たくましく成長してほしいですね」

